

(別記様式第3号)

普及活動検討会実施報告書

栗原農業改良普及センター

実施月日：令和6年2月7日
実施場所：宮城県栗原合同庁舎

1 検討内容

No.	検討項目
1	令和5年度完了プロジェクト課題について
2	令和6年度普及指導計画全体像について
3	令和6年度プロジェクト課題について

2 検討委員の構成

(単位：人)

区分	人数	区分	人数
先進的な農業者	1	生活者	
若手・女性農業者	1	学識経験者	1
市町村	1	マスコミ	
農業関係団体	1	民間企業	1

3 委員の評価と普及センターとしての対応方向

検討項目	評価値 平均値	評価結果（コメント、評価表の要約）	普及センターとしての対応方向
No.1について	4.3	(全体) ・全体的に異常気象の中ではあったが、成果が出ており評価できます。活動の成果を収益向上や園芸振興に役立ててください。 (課題別) (1)人と環境にやさしいズッキーニ栽培と収益力の向上 ・生産部会一丸となり市場との意見交換や直売所でのPR活動、また、生産技術の改善により秀品率向上が図られ消費拡大や農	・得られた成果については、今後の普及活動の中で活用し、役立ててまいります。

		<p>家収入のつながったことを評価します。</p> <ul style="list-style-type: none"> 引き続きズッキーニのPR活動支援と高温障害等の対策指導をお願いします。 <p>(2)金成津久毛地区における高収益作物・定着</p> <ul style="list-style-type: none"> ほ場整備地区におけるばれいしょ導入のため、担い手と苦労しながら粘り強く取り組まれたことを高く評価します。 ばれいしょは、排水対策が重要だと考えます。課題が終了しても継続支援を望みます。 <p>(3)集落営農における大豆生産及び法人経営の安定化</p> <ul style="list-style-type: none"> 雑草防除、単収・品質向上など総合的支援により、労働時間の短縮が図られたこと、単収も大幅に増加したことを評価します。 大豆生産は栗原地域の核となるものなので、今回の事例を横展開し、管内生産技術の底上げをお願いします。 	<ul style="list-style-type: none"> ズッキーニについては、重点活動の「地域農業の柱となる露地園芸品目の生産拡大支援」で、今後も継続して指導活動を実施してまいります。 ばれいしょについては、重点活動の「地域農業の柱となる露地園芸品目の生産拡大支援」で、今後も継続して指導活動を実施してまいります。 大豆については、新たなプロジェクト課題の「土地利用型経営体の大豆多収穫技術の体系構築による単収の向上」にて、新たな経営体を対象に生産技術の向上と定着を図ってまいります。
No.2について	4.3	<ul style="list-style-type: none"> 栗原地域基本方針の4年目であることから、市農政、JA等関係機関や栗原農業を牽引する農業者とのチームワークのもと、普及活動の着実な取組を期待いたします。 気候変動に対しての栽培アプローチが一般活動に入っている点はとても良いと思います。 	<ul style="list-style-type: none"> 令和6年度の重点活動項目に基づき、プロジェクト活動及び重点・一般活動を市、JA等の関係機関や経営体等との協力のもと、普及活動を計画的に実施してまいります。 普及活動においては、気候変動等の状況にも適切に対応した生産技術指導を実施してまいります。
No.3について	4.3	<p>(全体)</p> <ul style="list-style-type: none"> 今までのノウハウを活用しながら、生産者を前向きにさせ、早期の成果波及も重視して取り組まれることを期待します。 	<ul style="list-style-type: none"> 全ての課題が新規課題であることから、チーム体制を早期に構築し、対象経営体とともに活動成果を早期に構築できるよう取り組んでまいります。

	<ul style="list-style-type: none"> ・栗原市水田農業ビジョンの地域重点振興作物（ズッキーニ、たまねぎ、じゃがいも）や需給調整等作付け誘導計画（大豆、麦）と関わりのある内容であることを評価します。 <p>(課題別)</p> <p>(1) 金成有壁地区の活性化ビジョンの実現</p> <ul style="list-style-type: none"> ・吟のいろはの生産拡大を通じた農商工連携の実現に期待します。 <p>(2) 加工用たまねぎの直播栽培技術の確立による収量確保</p> <ul style="list-style-type: none"> ・たまねぎは、JAでも力を入れる園芸作物なので、対象法人による優良事例（直播技術の確立）の成功に期待します。 <p>(3) 土地利用型経営体の大豆多収穫技術の体系構築による単収の向上</p> <ul style="list-style-type: none"> ・大豆は、品質はもちろんですが、各作業の見える化を図り、反収向上に結びつける指導に期待します。 ・対象は違いますが成果が出ているので、昨年度との違いを明確にしてほしい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・水田を活用した収益性の高い農業の展開に向けて、大豆・麦の収量・品質向上支援を行うとともに、高収益作物でもある園芸品目の導入・定着に向けた取組や生産拡大を推進してまいります。 ・地域で作成したビジョンの実現へ向けて、地域農業者や関係機関とともに活動に取り組んでまいります。 ・対象法人とともに、直播栽培技術の確立のため、研究機関等の関係機関と連携して支援してまいります。 ・今年度までの成果を踏まえ、新たな経営体に対して大規模生産であっても、ほ場状況に適切に対応した栽培管理技術の精度向上が定着するよう活動してまいります。
その他	<ul style="list-style-type: none"> ・マーケティングの視点、プロモーション（販促）とプレイス（販売場所）を計画段階より強化すれば、さらに成果が出ると感じます。 ・暑さに対しての栽培技術の構築はもう少し大きく扱ってもいいような気がします。 	<ul style="list-style-type: none"> ・いただいた御意見等につきましては、普及活動を実施する際に意識して取り組んでまいります。